

2024年3月期 第3四半期

決算の概要

2024年2月8日



- ✓ 基本的に連結の数値を用いて、前期からの増減事由について解説します。

主要数値の実績と第3四半期進捗率

[\[連結\]](#)

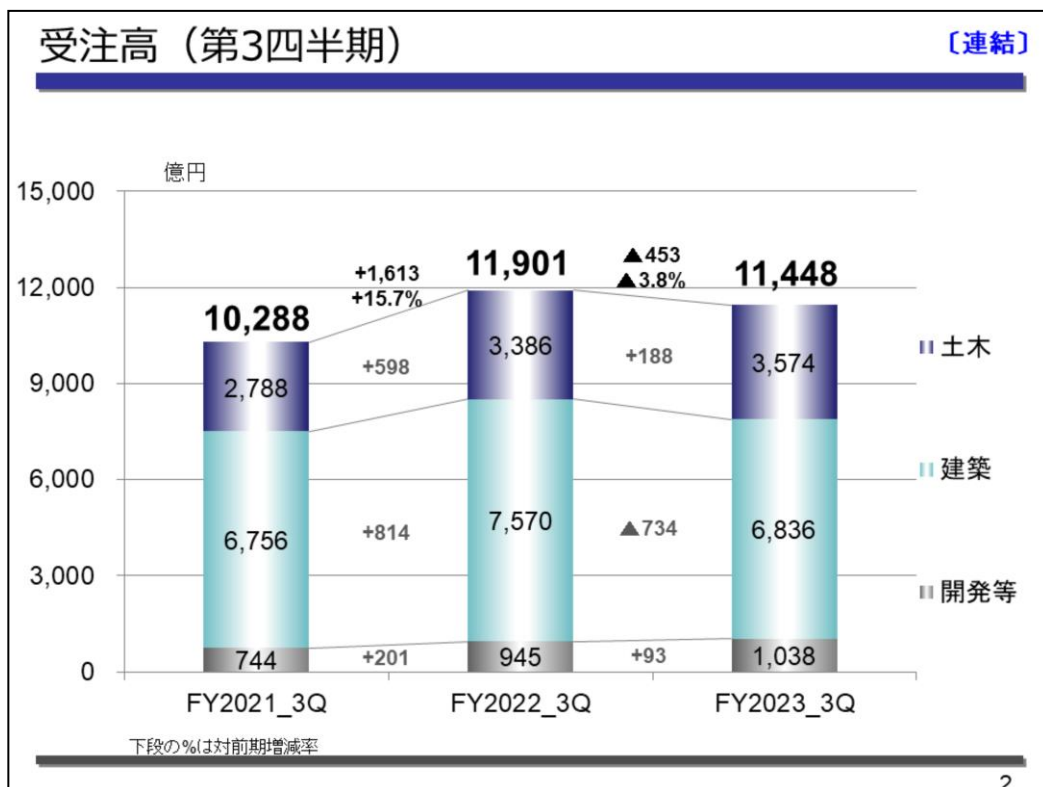
- ✓ 売上高は、土木事業および開発事業の寄与により増収となった。
- ✓ 各段階利益は、建築事業における国内工事の大幅な利益率低下により減益となり、通期予想に対する進捗率が低位に留まっている。

(億円)

	FY2022 3Q 実績	FY2023 3Q 実績	増減	FY2023 通期 予想	3Q進捗率 (対通期予想)
受注高	11,901	11,448	▲453	15,900	72.0%
売上高	11,046	11,463	417	16,900	67.8%
売上総利益	1,071 9.7%	871 7.6%	▲200 ▲2.1Pt	1,660 9.8%	52.5%
営業利益	419 3.8%	175 1.5%	▲244 ▲2.3Pt	640 3.8%	27.4%
経常利益	490 4.4%	251 2.2%	▲239 ▲2.2Pt	670 4.0%	37.5%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	329 3.0%	198 1.7%	▲131 ▲1.3Pt	470 2.8%	42.0%
1株当たり 四半期純利益(円)	166.90	105.53	▲61.37	251.77	41.9%

1

- ✓ 受注高は、建築事業において、前期に複数の大型工事の受注があった反動減により、減少しました。
- ✓ 売上高は、土木事業において、期首手持工事高が増加したことに加え、当期竣工を迎える国内大型案件が順調に進捗したこと、ならびに開発事業において、私募リートへ物件を売却したことにより、増収となりました。
- ✓ 各利益項目は、土木事業・開発事業において増益となったものの、建築事業における国内工事の大幅な利益率低下により、減益となりました。
- ✓ 通期予想に対する各段階利益の進捗率は、低位に留まっています。



✓ 受注高は、対前期▲453億円減少の1兆1,448億円となりました。

【土木】

- ・ 単体は、国内における大型工事の受注により、+236億円の増加となりました。
- ・ 子会社等は概ね前期並みとなり、連結全体では+188億円の増加となりました。

【建築】

- ・ 単体は、前期に複数の大型案件の受注があった反動により、対前期で▲723億円の減少となりました。
- ・ 子会社等は概ね前期並みとなり、連結全体では▲734億円の減少となりました。

【開発等】

- ・ 単体は、私募リートへ物件を売却したことから、+148億円の増加となりました。
- ・ 子会社等は、不動産子会社における収益不動産及び分譲マンション売却数の減少により、▲55億円減少し、連結全体で+93億円の増加となりました。

〔参考〕当第3四半期累計期間の主な受注工事〔土木〕〔単体〕

受注期	区分	工事名称	施設用途	発注者	産業分類
2Q	官	神奈川処理区エキサイトよこはま龍宮橋雨水幹線下水道整備工事(その4)	治山・治水	横浜市	市区町村
2Q	官	第二桃園川幹線その3工事	上下水道	東京都下水道局	地方公営企業
1Q	官	東名高速道路(特定更新等)太田川橋床版取替工事	道路	中日本高速道路(株)	政府関連企業
1Q	官	成瀬ダム原石山採取工事(第2期)	治山・治水	東北地方整備局	国
1Q	官	大和北道路八条地区橋梁工事	道路	近畿地方整備局	国

官：官庁
民：民間
海：海外

※ 用途別及び産業別の受注高(国内建設事業)は補足資料に記載している

3

- ✓ 単体土木の主な受注工事は記載の通りです。
- ✓ なお、上記に掲載していない主な受注工事としては、
- ・ 国による施設整備工事〔1Q〕
 - ・ 電気・ガス業による土地造成工事〔2Q〕
 - ・ 国による海洋土木工事〔2Q・3Q〕
- がありました。

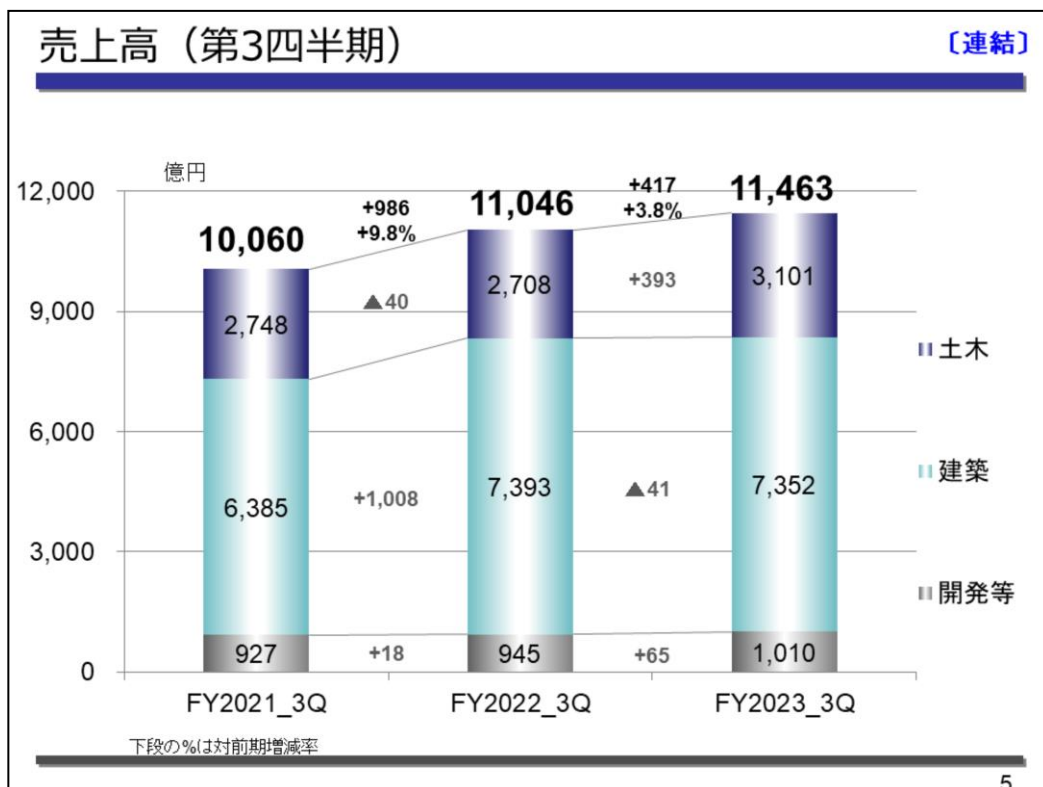
〔参考〕当第3四半期累計期間の主な受注工事〔建築〕〔単体〕

受注期	区分	工事名称	施設用途	発注者	産業分類
2Q	民	SMC遠野サプライヤーパーク建設計画	工場	SMC(株)	その他機械工業
3Q	民	東京国際空港第1旅客ターミナルビル北側サテライト建設工事	その他	日本空港ビルデング(株)	不動産業
3Q	民	東京エレクトロン九州 新開発棟	工場	東京エレクトロン九州(株)	その他機械工業
1Q	海	インド 住友不動産 ムンバイ・BKC事務所建設工事	事務所	Goisu Realty Private Limited	海外不動産業
3Q	民	NEOPJ 建築設計施工	工場	AGC(株)	その他

官：官庁
民：民間
海：海外

※ 用途別及び産業別の受注高(国内建設事業)は補足資料に記載している

- ✓ 単体建築の主な受注工事は記載の通りです。
- ✓ なお、上記に掲載していない主な受注工事としては、
 - ・ 化学工業による医薬品工場新築工事〔3Q〕
 がありました。



✓ 売上高は、対前期417億円増収の1兆1,463億円となりました。

【土木】

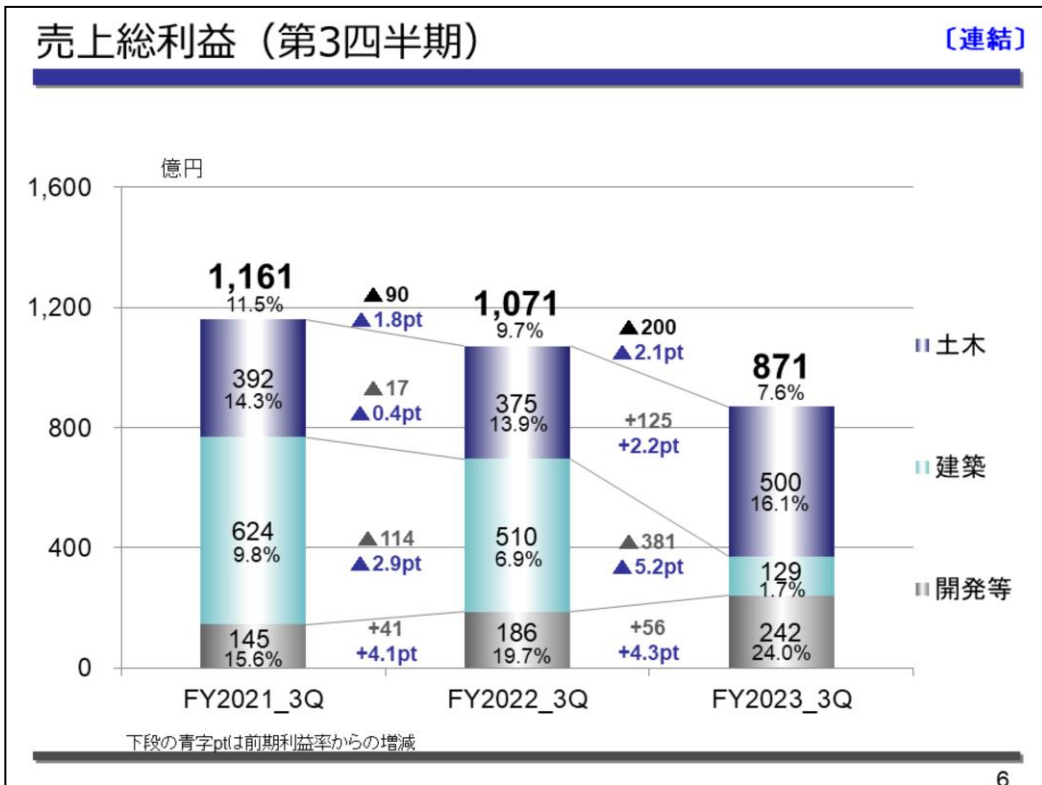
- ・ 単体は、期首手持工事高の増加、および当期竣工を迎える国内大型案件の順調な進捗により、**+348億円**の増収となりました。
- ・ 子会社等は、道路舗装子会社における期首手持工事高の増加や、製品販売単価の上昇により、**+45億円**の増収となり、連結全体では**+393億円**の増収となりました。

【建築】

- ・ 単体は、国内は概ね前期並みであったものの、海外における期首手持工事高の減少により、**▲75億円**の減収となりました。
- ・ 子会社等は、海外子会社の手持工事の増加により**+34億円**の増収となりましたが、連結全体では**▲41億円**の減収となりました。

【開発等】

- ・ 単体は、私募リートへ物件を売却したことから、**+118億円**の増収となりました。
- ・ 子会社等は、不動産子会社における収益不動産及び分譲マンション売却数の減少により**▲53億円**の減収となり、連結全体では**+65億円**の増収となりました。



- ✓ 売上総利益は、建築事業の利益率低下により、対前期▲200 億円減益の871億円となりました。

【土木】

- ・ 単体は、増収および利益率の好転により、+100億円の増益となりました。
- ・ 子会社等は、道路舗装子会社における増収および利益率好転により+25億円の増益となり、連結全体では+125億円の増益となりました。

【建築】

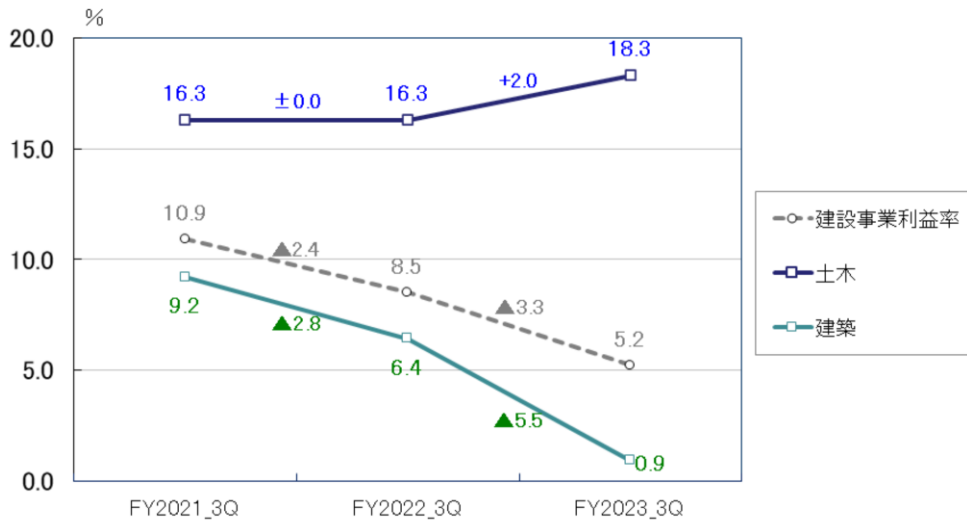
- ・ 単体は、国内工事の利益率低下により▲371億円の減益となりました。
- ・ 子会社等は、概ね前期並みとなり、連結全体では▲381億円の減益となりました。

【開発等】

- ・ 単体は、私募リートへの物件売却益を計上したこと+57億円の増益となりました。
- ・ 子会社等は、概ね前期並みとなり、連結全体では+56億円の増益となりました。

〔参考〕単体・完成工事利益率（第3四半期）

〔単体〕



7

✓ 単体の完成工事利益率は▲3.3ポイント低下5.2%となりました。

【土木】

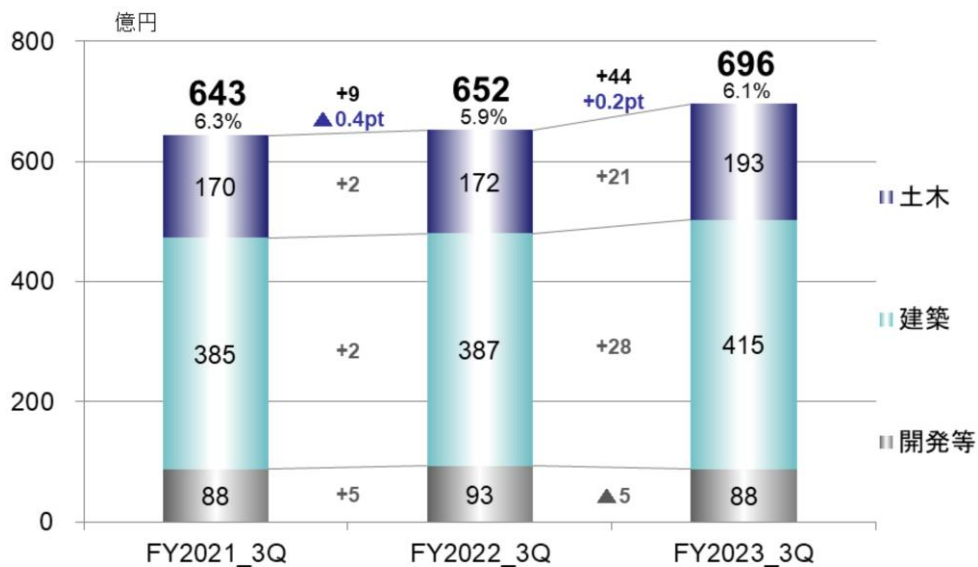
- ・当期に最終決算を迎える国内大型案件において、原価低減や追加工事の獲得が順調に進んだことにより、2.0ポイント増加の18.3%となりました。

【建築】

- ・当期は手持工事に占める低採算の大型案件の割合が高い状況下、第1四半期において、国内工事で工程遅延に伴う損失計上が生じたこと、加えて、当四半期において、建設コスト上昇に伴う物価スライド協議が合意に至らず、一部の国内工事において収支が悪化した影響により、▲5.5ポイント低下の0.9%となりました。

販管費（第3四半期）

〔連結〕

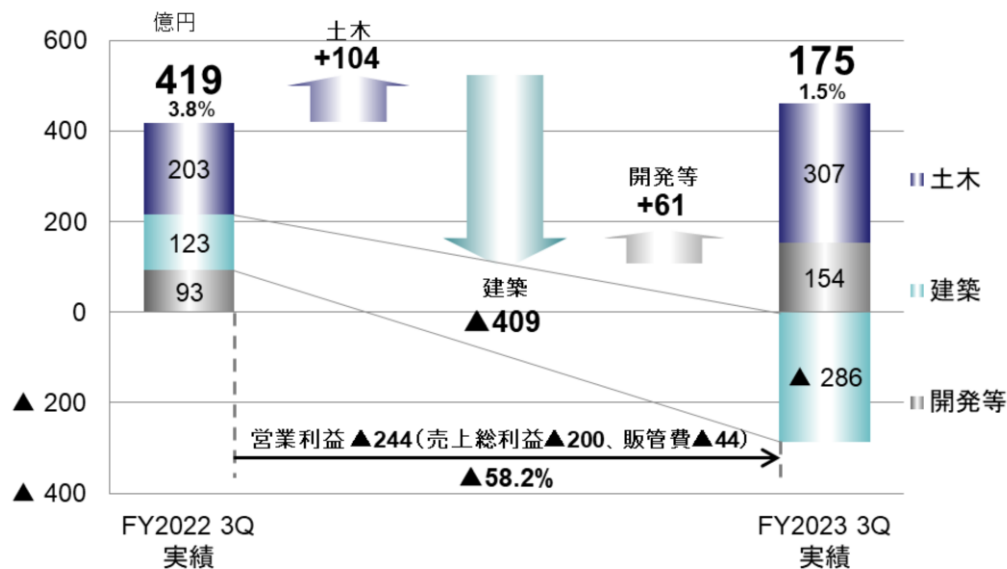


8

- ✓ 単体は、賃上げに伴う人件費の増加、および投資計画に基づく技術開発費の増加により、**+41億円**の支出増となりました。
- ✓ 子会社等は、概ね前期並みとなり、連結全体では**+44億円**の支出増となりました。

営業利益（第3四半期）

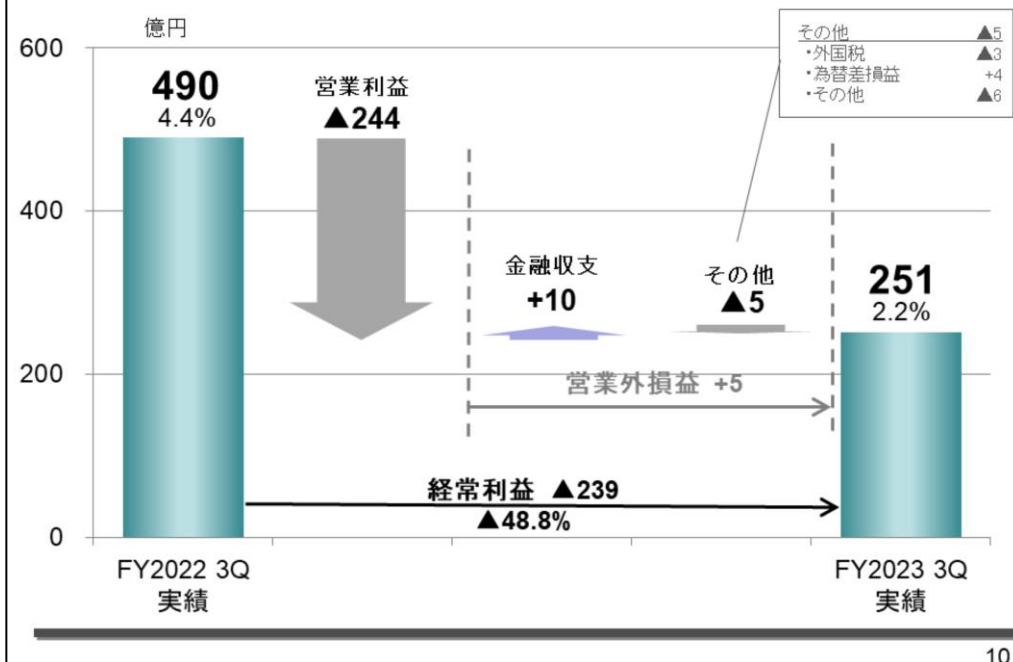
〔連結〕



- ✓ 営業利益は、売上総利益の減益に加え、販管費の支出増もあり、対前期 ▲244億円減益の175億円となりました。

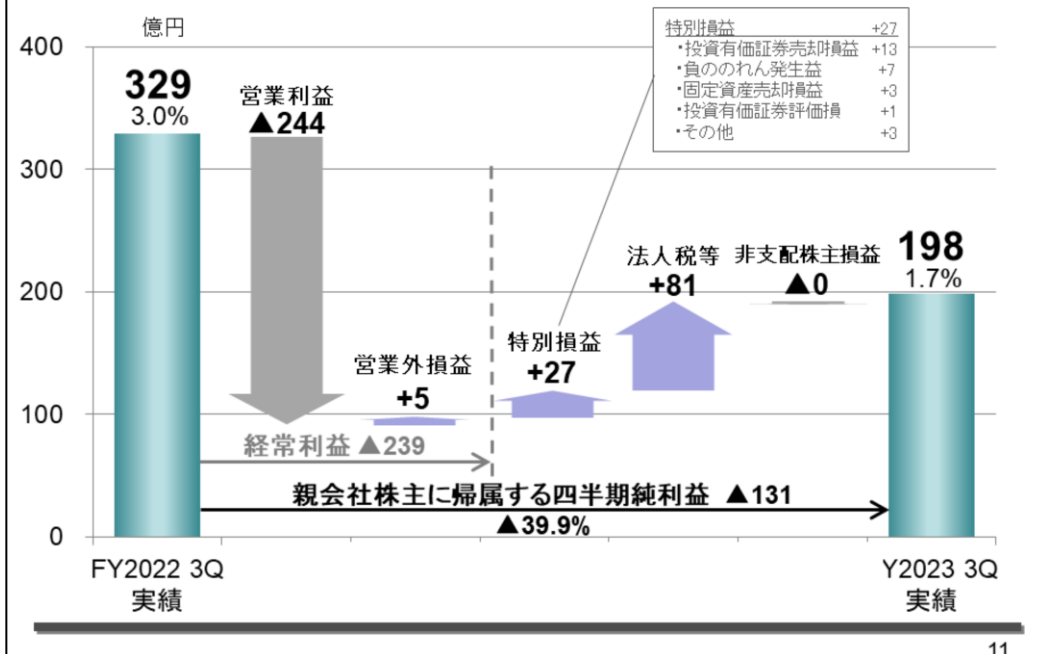
経常利益 – 増減分析 – (第3四半期)

[\[連結\]](#)



- ✓ 経常利益は、営業利益の減益に伴い、対前期▲239億円減益の251億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益－増減分析－（第3四半期） [【連結】](#)



- ✓ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、対前期▲131億円減益の198億円となりました。
- ✓ なお、特別損益の27億円の好転は、投資有価証券売却益の増加、およびピーエス三菱の株式取得に伴う負ののれん発生益によるものです。